

都市再生整備計画 フォローアップ報告書

「篠ノ井駅東口地区」

令和7年3月

長野県長野市

1. 数値目標の達成状況の確認(確定値)

様式4-① 都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の確定

指標		単位	従前値	目標値	事後評価				フォローアップによる確定値	計測時期	フォローアップ時点での達成度	確定値が評価値と比較して大きな差異がある場合や改善が見られない場合等	総合所見	
					評価値	見込み・確定の別	目標達成度	1年以内の達成見込み						
指標1 歩行者・自転車交通量	人／日	3,402	3,400	2,487	確定	●	△	あり	1,053	R5.9	×	人口減少による。	<input checked="" type="checkbox"/> 改善策はそのまま <input type="checkbox"/> 改善策に補強が必要 <input type="checkbox"/> 新たに改善策をたてる	人口減少という要因はあるものの、交通量調査の対象地区である、内堀、芝沢の両地点を含む篠ノ井地区全体で世帯数の増加が見られた。拠点施設の整備を行い利便性の向上を図った効果が表れたものと評価できる。
					見込み			なし						
指標2 拠点施設の利用者数	人／年	63,591	63,600	35,324	確定	●	△	あり	59,059	R6.3	△		<input checked="" type="checkbox"/> 改善策はそのまま <input type="checkbox"/> 改善策に補強が必要 <input type="checkbox"/> 新たに改善策をたてる	新型コロナウイルス感染症の影響で、一時落ち込んだ利用者数は、堅調な回復を見せている。目標値は達成できなかつたものの、R5年度末にはR1年度の水準にまで回復しており拠点施設の整備によって、地域活動が向上したものと評価できる。
					見込み			なし						
指標3					確定			あり					<input type="checkbox"/> 改善策はそのまま <input type="checkbox"/> 改善策に補強が必要 <input type="checkbox"/> 新たに改善策をたてる	
					見込み			なし						
指標4					確定			あり					<input type="checkbox"/> 改善策はそのまま <input type="checkbox"/> 改善策に補強が必要 <input type="checkbox"/> 新たに改善策をたてる	
					見込み			なし						
指標5					確定			あり					<input type="checkbox"/> 改善策はそのまま <input type="checkbox"/> 改善策に補強が必要 <input type="checkbox"/> 新たに改善策をたてる	
					見込み			なし						

事後評価シート 様式2-1及び添付様式2-①から転記 ※全ての指標について記入

※フォローアップの必要のある指標について記入

※全ての指標について記入

様式4-② その他の数値指標の確定

指 標	単位	従前値	目標値	事後評価				フォローアップによる確定値	計測時期	フォローアップ時点での達成度	確定値が評価値と比較して大きな差異がある場合や改善が見られない場合等	総合所見	
				評価値	見込み・確定の別	達成度	1年内の達成見込み						
その他の数値指標1				確定								<input type="checkbox"/> 改善策はそのまま <input type="checkbox"/> 改善策に補強が必要 <input type="checkbox"/> 新たに改善策をたてる	
その他の数値指標2				確定								<input type="checkbox"/> 改善策はそのまま <input type="checkbox"/> 改善策に補強が必要 <input type="checkbox"/> 新たに改善策をたてる	

事後評価シート 様式2-1及び添付様式2-②から転記 ※全ての指標について記入

※フォローアップの必要のある指標について記入

※全ての指標について記入

2. 今後のまちづくり方策の検証

様式4-③「今後のまちづくり方策」の進捗状況

事後評価シート 添付様式5-③に記載した 今後のまちづくり方策(事項)		実施した具体的な内容	実施した結果	今後の課題 その他特記事項
・効果を持続させるために 行う方策	施設間の連携による世代間交流の促進	施設を複合化したことによる特性を活かし、施設間の連携による世代間交流を促進する。 (世代間交流事業) (センター芸能祭)	各種イベントや事業の実施により、地域の方の交流の場としての役割を担うことができた。	引き続き地域住民の交流の拠点としての機能を發揮するとともに、複合施設の利点を活かし、相互の更なる連携と事業展開を図っていく。
改善策 ・まちづくりの目標を達成するための改善策 ・残された課題・新たな課題への対応策 ・その他 必要な改善策	歩行者の安全性	歩道の未整備区間が多いことから、街路事業(3・4・46)川中島幹線による幹線道路の整備を通して、歩道の整備を進め歩行者の安全性向上を図った。	事業進捗率は令和6年度末で69.1%を見込んでおり、計画的に整備を進めることができている。	引き続き事業進捗を図り整備を進めていく。
	拠点施設の利用者数	拠点施設の感染拡大防止対策を徹底し、利用者が安心して活動できる場を提供していくとともに、利用者アンケートなどから施設運営の向上を図ることで、アフターコロナへ向け地域コミュニティの継続的な活動を促進する。	新型コロナウイルス感染症が5類に移行された後は、徐々にコロナ禍前の受入体制に戻し、施設の有効活用に努め、計画どおりの運営を行うことができた。	老人福祉センター併設という特性上、引き続き感染症対策に努め、高齢者にも安心して利用できるよう施設運営を行っていく。

事後評価シート 添付様式5-③から転記

様式4-④ フォローアップにより新たに追加が考えられる今後のまちづくり方策

追加が考えられる今後のまちづくり方策	具体的な内容	実施時期	実施にあたっての課題 その他特記事項